

# 第12回噴火湾ホタテガイ情報(2010年)

発行日：平成22年9月21日

函館水産試験場・栽培水産試験場・釧路水産試験場  
胆振・渡島北部・渡島中部地区水産技術普及指導所

図1. 噴火湾海底上5mの溶存酸素分布(9/14-9/16)

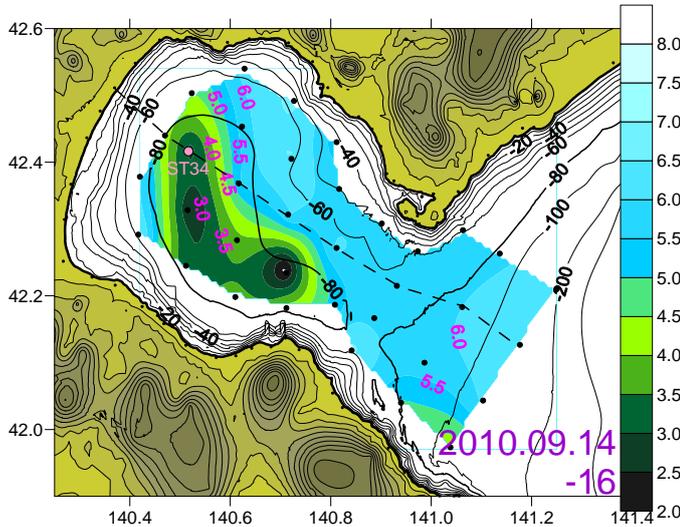


図2. 噴火湾断面の環境変量分布(9/14-9/16, 図1の点線部の断面図)

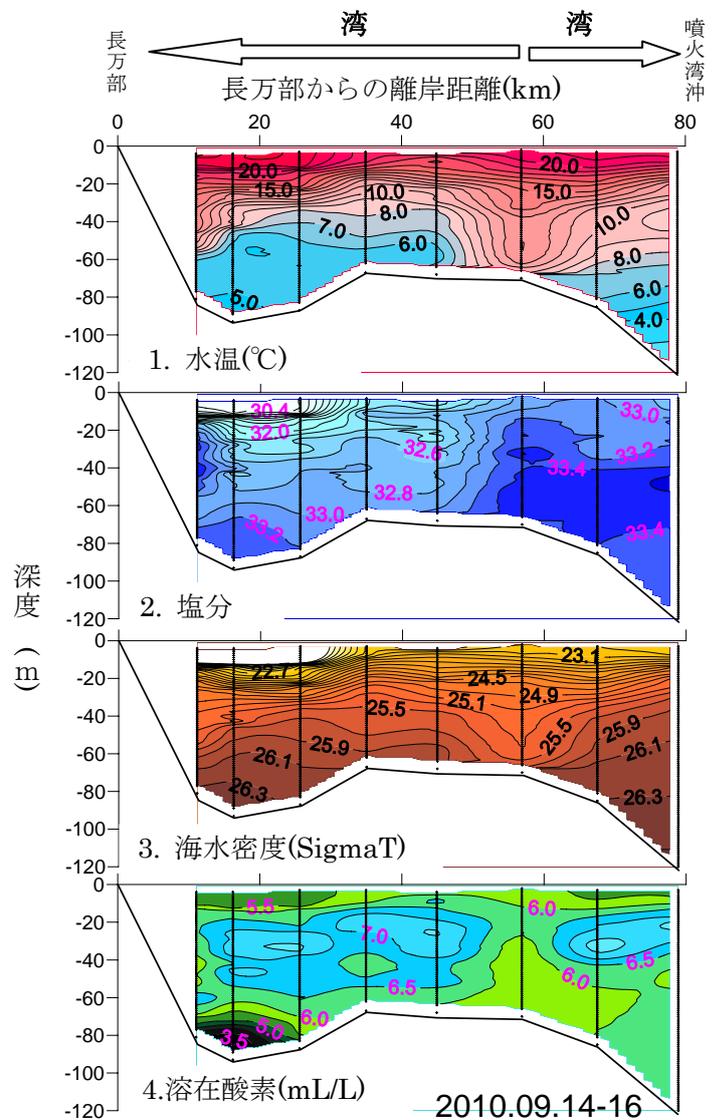
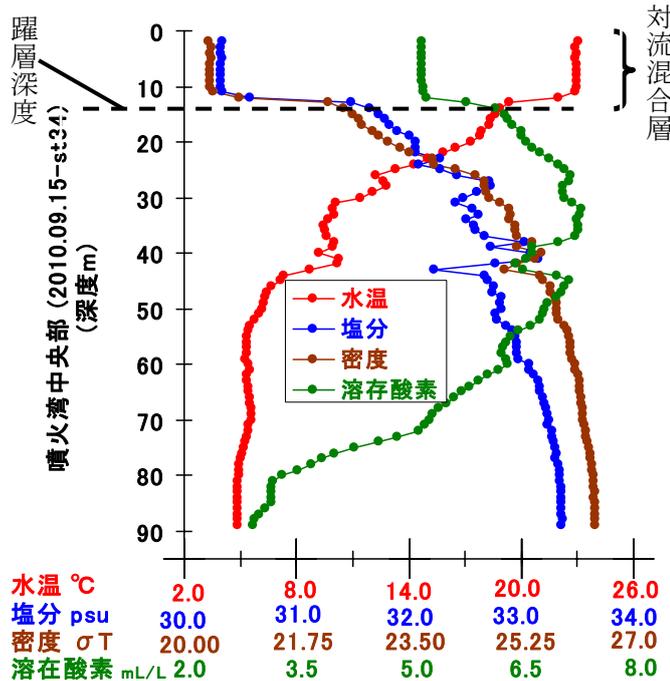


図3. 湾中央 St. 34 における環境の鉛直分布(9/15, 図1のST34)



## 概要

9月14～16日に函館水産試験場の金星丸により噴火湾の環境調査を行いました。海底上5mの溶存酸素濃度は、前回調査(7/5-7/6)よりもやや悪化しています(図1)。湾外には、やや塩分の高い津軽暖流系(33.5～33.6以上)の海水が分布しています(図2-2)。胆振側室蘭から虻田までのごく沿岸には、深度25m以深に比較的高塩分の湾外水が流入しました(貝毒プラントモニタリング速報HK24)。しかし、津軽暖流水はまだ、湾内に本格的には流入していません。大気からの冷却により対流混合層が発達を始めましたが、まだ浅い状況です(図3)。

過去の環境解析の結果から、津軽暖流水の流入が遅い年に稚貝のへい死や変形・欠刻が起きています(2002年、2003年、2009年)。今年(2010年)は、へい死や変形・欠刻のなかった2007年や2008年よりも津軽暖流水の流入が遅れています。このままの状況で大きなシケがあると、稚貝にへい死や変形・欠刻が起きる可能性があります。しかし、湾外に津軽暖流系の海水が分布しており、稚貝の大量へい死と変形・欠刻があった2009年よりは津軽暖流水の流入が見込まれる状況です。今後も環境の変化に注目してください。次回の金星丸調査は10/25-10/29の予定です。

連絡先：北海道立総合研究機構 函館水産試験場 調査研究部 管理増殖グループ 馬場・渡野邊・金森